取 扱 説 明 書

普通騒音計

OS-556

株式会社テストー

この度、普通騒音計OS-556をお買い上げいただきまして、ありがとうございます。
末永くご愛用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をよくお読みいただき、正しくご使用下さい。

お願い

万一、故障や不具合などで修理が必要になりましたら、手を加えずにお買い上げの販売店か下記営業所にお持ちください。ご自分で分解・調整しますと、修理不能となる場合があります。

株式会社テストー http://www.testo.jp
e-mail. info@testo.co.jp

本社・営業部　〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-2-15 パレアナビル7F
TEL.045-476-2288 FAX.045-476-2277

大阪営業所　〒530-0055 大阪市北区野崎町7-8 梅田パークビル9F
TEL.06-6314-3180 FAX.06-6314-3187

(2009.06)

概　要

OS-556は、計量法・JIS及びIECの普通騒音計規格に基づいた、騒音レベルや音圧レベルが測定できる騒音計です。
また、どなたでも簡単に操作できるシンプルなデザインとしました。
環境調査、建築現場での騒音測定、工場・事務所・学校・病院等の労働衛生面での管理、自動車等の排気騒音の測定、あるいは製品の品質管理などの広い分野で使用できます。

特　徴

◆軽量で、厚さ約２cmの超薄型。
◆片手で簡単に操作ができます。
◆最大値ホールド機能を備えています。
◆大型のデジタル表示で、読み取りが容易です。
◆FLAT特性を備え、精度の高い音圧レベルの測定ができます。
◆オーバー・アンダースケール表示で正確な測定ができます。
◆交流出力端子及び直流出力端子を備えています。
◆周波数分析器や記録計を接続し、分析・記録ができます。

取扱上の注意

落とさないで

精密機器なので、衝撃や振動を与えないで下さい。故障や損傷の原因になります。

水滴厳禁

特にマイクロホンに、水・ほこりがつかないようにして下さい。高温・高湿の場所での保管も禁物です。

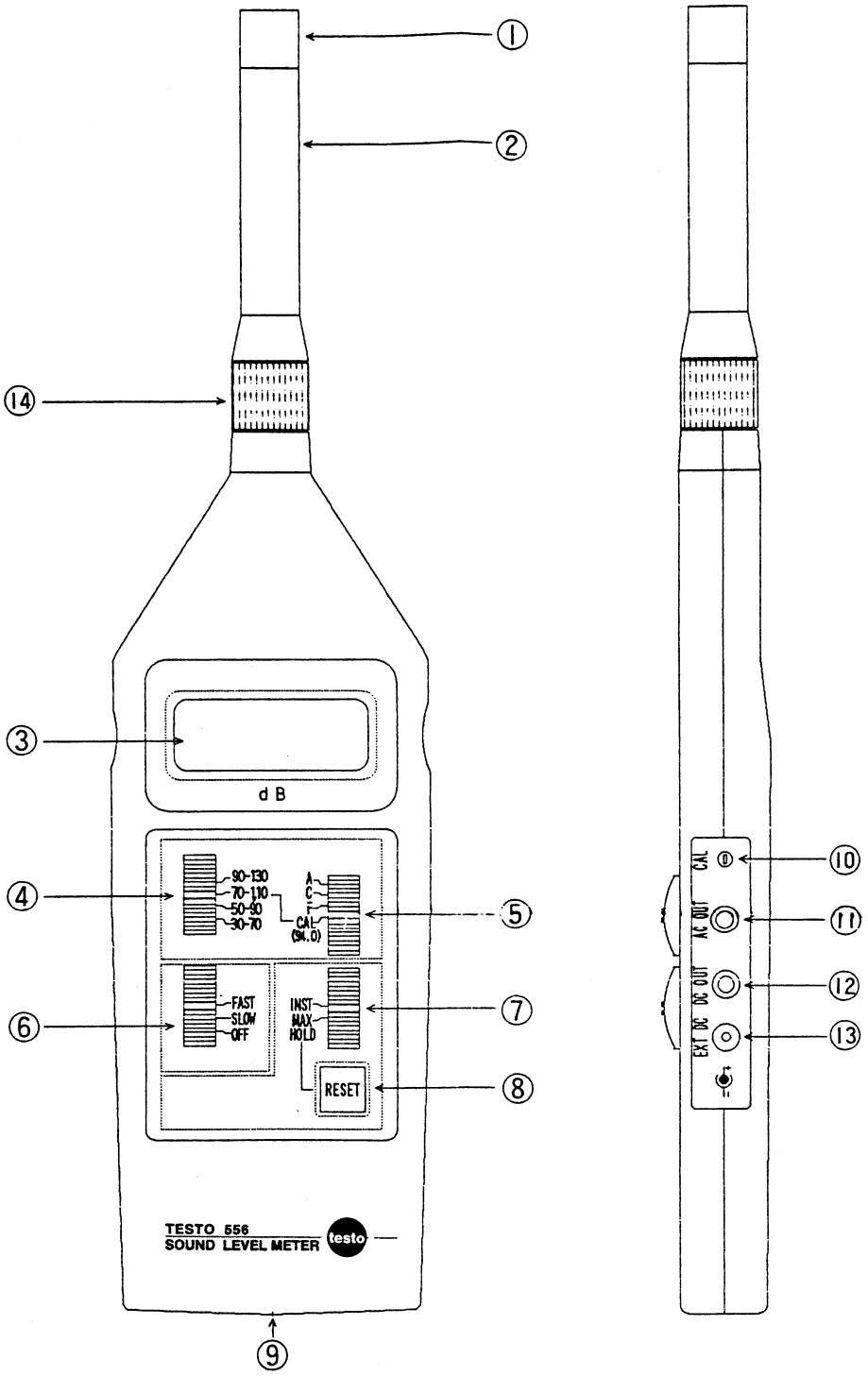
携帯ケースを使おう

ゴミやほこりが、故障の原因となることがあります。使用しない時は必ず携帯ケースに収納しておきましょう。

電池の交換は

・極性〔+〕〔−〕を正しく合わせて下さい。
・交換する時は、２本とも交換して下さい。
・長時間使用しない時は、必ず電池を取り外しておいて下さい。液漏れにより本器が損傷することがあります。

各部の名称



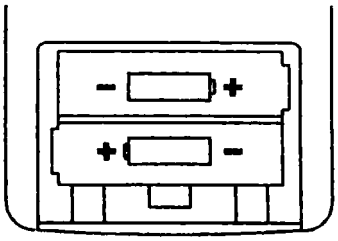
①エレクトレットマイクロホン
　½インチ仕様
②プリアンプ
③レベル表示器
　測定値、オーバースケール、アンダースケール、電池電圧警告を表示します。
　測定値は0.1dB分解能で表示されます。
　OVER：測定レンジが低いとき表示されます。
　　（この場合はレンジを上げます）
　－　：測定レンジが高いとき表示されます。
　　（この場合はレンジを下げます）
　BATT：電池電圧が下がると表示されます。
④レベルレンジ切換器
　測定レンジを選択します。
⑤周波数補正特性切換器
　Ａ　：周波数補正特性Ａで測定します。
　Ｃ　：周波数補正特性Ｃで測定します。
　Ｆ　：周波数補正特性Ｆで測定します。
　ＣＡＬ：校正信号を出力します。
⑥電源入・切及び動特性切換器
　FAST又はSLOWにすると電源がONとなります。
　検波回路の特定数を切換えます。
　通常の測定はFASTで行います。
⑦瞬時値・最大値ホールドスイッチ
　ＩＮＳＴ　　：瞬時値を表示します。
　ＭＡＸ ＨＯＬＤ：最大値を表示します。
　通常の測定はINSTで行います。
⑧リセットスイッチ
　最大値ホールドされた値をリセットします。
⑨ハンドストラップ取付ネジ
　ハンドストラップを固定します。測定時は必ず落下防止の為にご使用下さい。
⑩レベル校正用ＶＲ
　校正時〔94.0〕dBになるように合わせます。
⑪波形信号出力端子
　交流信号を出力します。
⑫レベル信号出力端子
　直流信号を出力します。
⑬外部電源入力端子
　ＡＣアダプタや外部電源を接続します。
⑭マイク・プリアンプ脱着用コネクタ
　プリアンプケースを固定するためのナットです。マイクロホンケーブルを接続する時は、このネジを緩めます。

使用方法

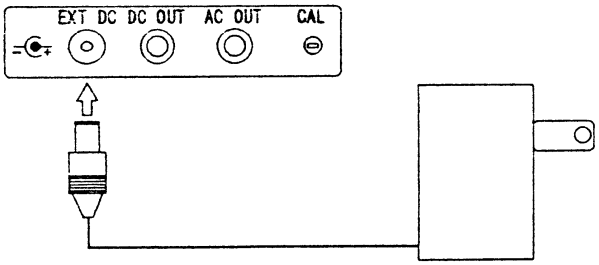
〔準　　備〕

裏の乾電池収納蓋を取り乾電池を入れます。
電源スイッチ⑥を［FASTまたはSLOW］にしたときに、レベル表示器③に［BATT］の表示が現れた場合は電池を２個とも交換します。
※［BATT］は電池電圧が約２Ｖ以下になると表示されます。単三型マンガン乾電池で約17時間の連続使用が可能です。

◆乾電池の入れ方　⊕⊖を正しく



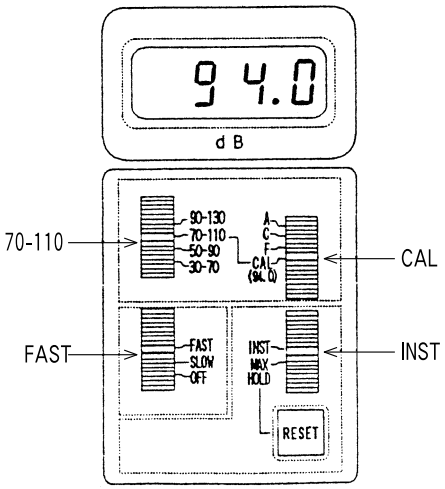
◇ＡＣアダプタの接続



- ＡＣアダプタを接続すると、電池が入っていても、自動的にＡＣ電源に切り換わります。
- 必ず、専用アダプタ（ＴＹＰＥ7909、型番：ＡＡＡ ＯＰ28）をご使用下さい。

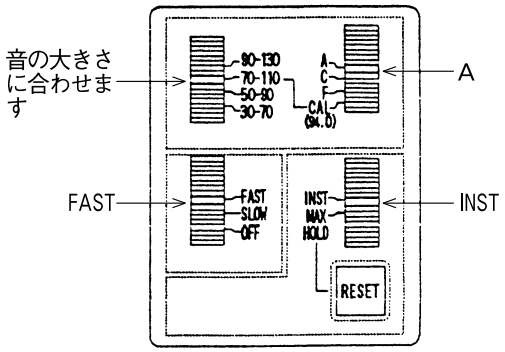
〔内部校正信号による校正〕

- 下記の図のように各スイッチをセットします。
- 右側面の⑩レベル校正用VRを回して94.0dBに合わせます。



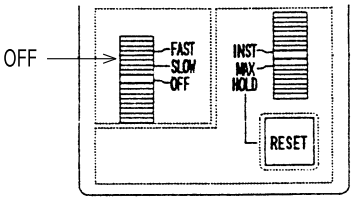
〔騒音測定〕

◆スイッチの設定



- ⑤周波数補正特性切換器を「A」にセットします。
- ⑥動特性切換器を「FAST」にセットします。
- ⑦瞬時値、最大値ホールド切換器を「INST」にセットします。
- 音の大きさにより③レベル表示器内に「OVER」「－」が表示されないように、④レベルレンジ切換器をセットします。

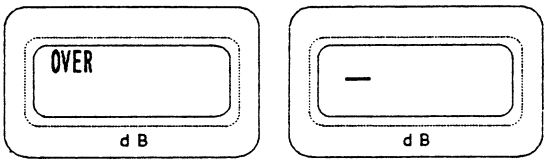
〔測定の終了〕



- ⑥電源スイッチを「OFF」にします。

〔各部の機能〕

◇③レベル表示器

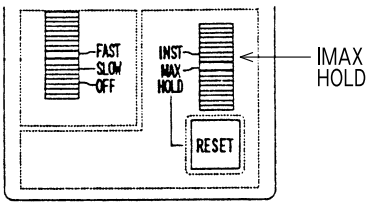


「OVER」の表示
レンジを上げる

「－」の表示
レンジを下げる

表示部に「OVER」または「－（アンダーの意味）」の表示が連続して表示される場合は、④レベルレンジ切換器を切換えて、表示が消えるようにして下さい。

◇最大値ホールド

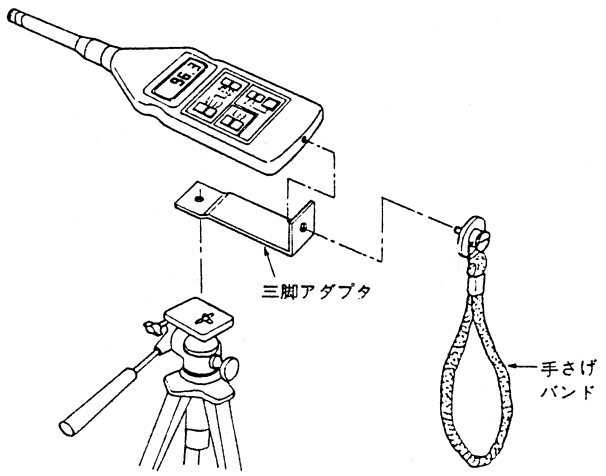


- 最大値を測定する場合に、⑦瞬時値・最大値ホールドスイッチの「MAX HOLD」を使用します。再度、最大値を測定する時は、⑧セットスイッチを押します。

仕　　様

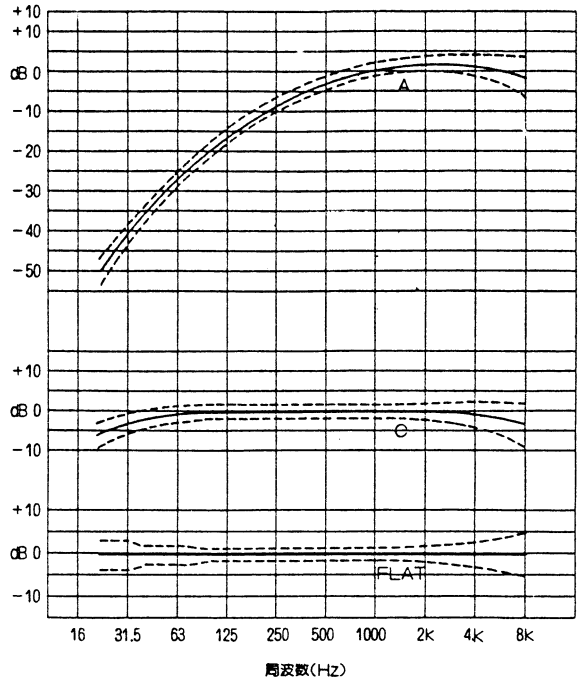
適用規格	：計量法, JIS C 1502, IEC 651 Type 2
測定レンジ	：30～70、50～90、70～110、90～130（dB）4段切り換え（1レンジ範囲40dB）
測定モード	：瞬時値及び最大値ホールド
周波数範囲	：20～8,000Hz
周波数補正回路	：A、C及びF（FLAT）特性
マイクロホン	：½インチエレクトレットコンデンサー ：マイクロホン（チタン膜採用）
実効値回路	：真の実効値
動特性	：FAST及びSLOW
表示	：デジタル3½桁 LCD，0.1dB分解能
表示周期	：1回／1秒
補助表示	：オーバースケール；測定レンジの最大値の約+9dBで「OVER」を表示 アンダースケール；測定レンジの最小値の約+7dBで「−」を表示 電池電圧；約2.0V以下で「BATT」を表示
校正信号	：内蔵発振器による電気的校正 1000Hz 正弦波
出力	：交流出力；指示最大値　1.5Vrms 直流出力；指示最大値　2V 0.04V/dB 負荷抵抗；10kΩ以上
電源	：単三形乾電池（SUM－3）2本 （AC100V:ACアダプター;オプション）
使用時間	：マンガン乾電池使用時　約17時間 アルカリ乾電池使用時　約40時間
使用温湿度範囲	：−10～50℃、10～90% RH 以下
外形寸法	：72(W)×293(H)×24(D)mm
質量	：約290g（乾電池含む）
構成	：本体　1 マイクロホン風防　1 ハンドストラップ　1 三脚アダプタ　1 マイクロドライバー　1 単三乾電池　2 収納ケース　1

〔三脚アダプタの取付方法〕



〔周波数補正特性について〕

周波数補正特性の基準レスポンス

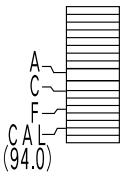


周波数補正回路“A”・“C”及び“FLAT”について

一般に、騒音の大きさを測定する場合に“A特性”を使用します。この“A特性”で測定した値を騒音レベルと呼びます。

また“FLAT”で測定した値は、物理的な量である音圧レベルで、“C特性”は、音圧レベルに近似したものです。

◇周波数補正特性切換器



騒音レベル測定は「A」にします。
音圧レベル測定は「F」にします。
「A」特性と「C」特性あるいは「F」特性のレベル差により、おおよその周波数成分が分かります。

〔動特性切換器について〕

SLOW：時間的変動が少ない場合に使います。
FAST：SLOW以外の測定に使います。

〔身近にある騒音の例〕

騒音レベル dB(A)	40	50	60	70	80	90	100	110
騒音の例	深夜の街中	図書館	昼の静かな住宅地	静かな事務所	普通の事務所	普通の話し声	静かな工場	騒々しい事務所	騒々しい街頭	電車の中	騒々しい工場	のガード下	電車通過時	航空機離陸直下